

# ICTを活用した熊野古道伝承における視聴覚授業の有効性と地域教育への発展効果に関する研究

田辺市立三里学校

〒647-1743  
和歌山県田辺市本宮町伏拝966

## 1. 研究の背景

熊野古道など世界遺産を誇る和歌山県田辺市本宮町にある本校では、地域教育と学校教育を結ぶ総合的な学習の取り組みとして、この地域に残る語り部名人からの伝承を児童自身が聞き学び、さらに自らが語り部の体験をするという体験活動「語り部ジュニア」と称するプログラムを実施している。

過疎化や高齢化が進む中、「多くの貴重な伝承が次世代に受け継がれないまま消滅していく懸念が予想される」という地域の課題を解決するために、当小学6年生が1年かけて毎年語り部活動を体験学習することで、児童自身が自分たちの暮らす地域の自然環境、世界遺産の価値や魅力を再発見し、郷土への誇りを抱く「こころの成長」が確実に培われている。

しかし、その活動自体はこの学校関係者や地域住民に限られており、貴重な語り部名人の伝承や、語り部ジュニアによる地域文化の継承、その活動そのものも、当該地域以外に広く伝えることができていない。この地を訪れる学校の児童たちに、語り部ジュニア自身が観光ガイドのような役割を担ってきているが、交流機会のコミュニケーションに留まっている。

また、語り部名人から伝承を学ぶ機会は、どうしても人数や場所が限られてしまう。さらに、語り部体験学習の可視化、標準化、共有化ができていないことで、語り部ジュニアとしての評価が曖昧になりがちである。

## 2. 研究の目的

語り部活動に期待する学習効果、「話を聞く集中力」、「内容の理解力」、「伝承そのものの記憶力」、「伝承から昔の暮らしをイメージする想像力」、「それを自分の言葉で表す表現力」、「相手に伝えようとする会話力」、「相手が理解しているかを推し量るコミュニケーション力」が十分に発揮・習得され、より発展させるための方法を提案することを目的とする。

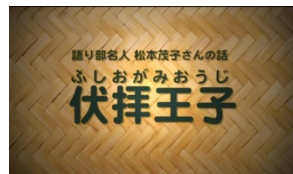
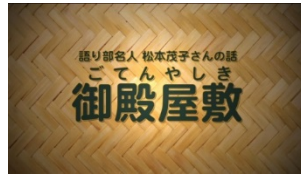
## 3. 研究の実践

### (1) 語り部名人による映像学習教材の開発と活用効果の検証

これまで体験学習（語り部からのレクチャー方式）や、自主調査研究学習を通じて、児童自身が先輩から受け継いだプログラムに創意工夫を施し進めてきた語り部プログラムだが、今回は映像教材を活用して各スキルを高める授業を試みた。

地元の語り部名人（松本茂子さん：熊野本宮語り部の会）にご協力いただき、語り部ジュニアのコースにあわせて映像教材を制作。

※当初、学校でカメラなどの機材を購入して進める予定だったが、編集など技術を要するために、田辺市にある（社）グリーンエデュケーションの支援により、映像機材のレンタルや撮影協力、また編集にご協力をいただき、5本の映像教材を制作した。



## (2) 地域や教育関係者への発信と評価

訪れた学校との語り部交流活動を4回程度撮影し、全体プログラムを地域の住民や田辺市教育関係者に発信と評価をするために、映像にしている。

それをサーバーにアップしながら、評価してあげられる体制を整備し、三里小学校の語り部ジュニアを ICT を通じて児童の動機づけを図る試みとして実施している。特に、本年度に交流した学校の児童にはネットを通じて、さらにコミュニケーションしていきたいと考えている。

## 4. 研究の内容・経過

### (1) 語り部学習会と他校との交流学习

#### ①5月～6月：語り部学習会及びグループ研究

○先輩から引き継いだ「語り部ジュニア・ガイド用テキスト」を読み、もっと調べてみたいことなどをピックアップする。(本年度は地域の特徴を伝えようという目標を設定した)

○現地調査や地域の方から取材をする。

○調べたことを整理し、伝えたいことを文章にまとめ、ガイド用テキストに加筆する。

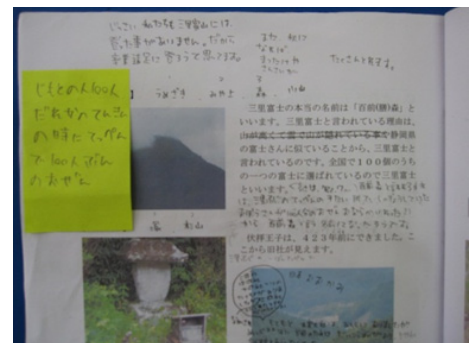
○班や学級で発表し合い、友だちからの評価を受け、お互いの思いを共有する。

○現地で語り部練習を行う。

※資料の収集や整理、活用のそれぞれの段階で、タブレット端末等の ICT 機器を使うなら、学習効率は向上すると感じた。



地域の方から教わったことを語る



修正・加筆されたガイドテキスト

#### ②5月：南山大学附属小学校4年生と交流学习

今年で5年目となる交流活動は、本校児童の語り部デビューの日でもある。これまでの学習で積み上げてきた語りをどこまで実践できるかを試す絶好の機会と捉えている。そして、終了後は語り部活動を振り返り、自分の思うようにできたことやできなかったこと、答えられなかった質問や名人からのアドバイスを元にして、さらに次の語り部活動に向けて学習をスタートさせる。振り返り学習をより効果的に行うには、名人や引率教師等大人の助言と、自分たちの語り部を撮影した映像資料があれば万全である。



語り部名人の助け舟



写真パネルで説明(雲に隠れた三里富士)

③7月:田辺市立田辺第一小学校5年生と交流学習会(撮影)

今年で2年目となる。雨のため、室内での語り部となったが、写真パネルを使ってふるさとの良さを伝えようとしていた。たくさんの質問があり、答えられなかったことについては語り部名人に助け舟を出してもらい、今後の調べ学習の課題とした。この時、パネルでは使用に不便さを感じた。特に枚数が多くなるとどれを使うのかわからなくなり、まごついていたことも多々あった。そこで、これらの課題を解決するためにタブレット端末の活用を試みることにした。同時に予算の組み替えを検討した。



映像教材制作のための業者による撮影



参加者から質問を受ける本校児童

④8月:全国学社融合フォーラムのアトラクションとして発表

アトラクションに出演し、舞台上で語り部を披露した。全国から来られた参加者に、本校の取り組みを見ていただくことができたことは、情報発信の機会として大変有意義なことである。プレゼンを使った発表はこれが初めてで、室内での語り部活動の方法として貴重な経験だった。



舞台上で堂々の語りを披露



お世話になった方々の紹介



### ⑤映像教材を使った授業

語り部名人の映像を収録した DVD が完成し、早速授業に取り入れた。5本の映像はそれぞれが数分にまとめられているので、子どもにもポイントがつかみやすく大変参考になった。説明の内容や、語るときの目線や身振り手振り等の伝えるための技法などのすばらしさに子どもたちはすぐに気づいていた。



名人の語りを視聴



感想や意見交流



ガイドテキストを修正・加筆

### ⑥9月：南山大学附属小学校5年生と交流学習会(撮影)

昨年訪問予定だった子どもたちが、1年遅れてやって来てくれた。この時には、語り部名人の DVD 視聴による学習を経験し、さらに表現力や会話力、コミュニケーション能力を磨いて語り部活動に臨んだ。



撮影スタッフが同行取材



終了後、名人のアドバイスを聞く

### ⑦11月：田辺市立近野小学校と交流学習会

3年前から交流を行っている。語り部ジュニア活動の先輩としての立場から、お手本になるような語り部を心がけている。当日の語り部活動はもとより、語るまでの調べ学習や練習方法などは参考としていただけたと思う。



テレビ局の取材スタッフが同行



保護者3人が参加

### ⑧2月：田辺市立近野小学校と交流学習

2年前から近野小学校でも語り部活動を始めた。相互に行き来することで刺激し合い、意見交流することで語り部に対する気持ちの高まりや技術の向上を図っている。この交流では、ふるさとのよさを再認識し、これらを守り伝えようとする思いを育てることにつながると考えている。



頭部が無くなったことがある『牛馬童子』像



遠くに近野小学校の校舎が見える

### ⑨3月：全校遠足で下級生に語り部を披露

現地で語り部活動を見せることが下級生にとっては生きた教科書となる。高学年になったらこんなことをするんだというイメージを持ちやすくなり、新年度のスタートがスムーズに切れると考える。



タブレットで情報収集



下級生に引き継ぎ



保護者・地域の方に

## 5. 研究の成果

映像視聴授業に参加した児童は、積極的に感想を述べた。これまで気づかなかった笑顔や手振り身振り等、語り部名人からの伝え方や表現力などを映像から観察し、「自分たちも笑顔を取り入れ、伝え方に抑揚や表情を持たせたい」等の意見も積極的に出された。

ほぼ全ての児童が、映像教材の価値から伝達する力や物語の表現方法などを学ぶことができた。それを踏まえて、9月に実施した南山大学附属小学校との交流学習会では、今まで以上に大きな声で、笑顔や手振り等を取り入れて進めることができた。

回数を重ねるごとに子どもたちの語り部としての技術は格段に進歩していると確信する。(学習と練習)・(本番の語り)・(振り返り)・(調べ直しと練習)のサイクルで古道語り部学習は進められている。本番で答えられなかった質問はしっかりと調べて答えられるようにしておく。それにはDVDの映像教材はもってこいの教材と言える。

子どもたちの目指す語り部は、訪れる人に熊野古道を含めてこの地域の良さをしっかりと伝えることにある。語る内容を充実させ、質問にも答えられるよう準備をし、語り部名人から学んだ話し方で活動実践を行っている。語り部名人からはその都度アドバイスを頂き、今後の目当てを明確にもらっている。

このように、語り部ジュニアの活動は地域の方の支援で成り立っている。その支援をさらに有効活用できるようにして

くれるのが、映像教材等 ICT である。いつでも、どこでも、だれでも簡単に学習教材として利用できることが一番のメリットである。

映像教材は児童も家庭からも視聴できるように、グリーンエデュケーションにご協力いただき、サーバーにアップしてある。

## 6. 今後の課題・展望

田辺市では平成26年度から熊野古道沿いの小中学校において、語り部ジュニアの活動に取り組むこととなった。この活動に先行して取り組んでいる本校は、それらの学校に対しお手本となるべき存在にならなければならない。そのためには、本年度に制作した視聴覚教材やプロモーションビデオは各校の語り部活動を進める上で有効だと思われる。

また、本校の語り部学習にとっても、先に述べたようなメリットを活かし、今後も映像教材を積極的に活用していく。

これまでは本校と近野小学校の2校だけが語り部活動を行っていたが、26年度からは大幅に増えることになる。お互いが映像で情報交換を行い、評価し合えるような関係を構築していくことが、それぞれの活動にとってプラスになると考える。田辺市は面積が広く、端から端までは車で2時間の距離がある。顔を合わせての交流は最も有効だが、ICTを活用した交流は時間の無駄がなく適当と考える。今後は ICT 機器の充実を図るとともに、それらを使いこなせるよう職員の ICT に関するスキルアップを図ることが重要となる。